

5—13 AMDA 診療所視察

今回の震災を受けて日本の医療援助 NGO の AMDA がバラールコートで展開する医療現場の視察を行った。この活動をコーディネートする佐伯美苗さんから仮設の医療施設の案内を受けた。AMDA の世界的ネットワークを駆使し、パキスタンのウルドゥー語と共通性の高いヒンズー語を話すネパールから男性医師 2 名とアフガニスタン出身の女性医師 1 名を招聘し、震災後数日で診療開始したようだ。

本格的な医療活動は 14 日から開始したとのこと。14 日、午前 10 時から午後 4 時までの間で 38 名の男性、25 名の女性患者が来訪したという。震災による怪我のため外科診療が多いそうだ。イスラムの風習を尊重し、男性と女性は別々の部屋で治療を受ける。

この地域への派遣は国際機関、地元の役所などの要請に基づいて決めたとのこと。今後日本から派遣される医師や看護師らも加えて約 2 週間の医療援助を実施していく予定。

最後に民主党議員義援金の一部を医療援助に役立ててもらうため寄付した。



佐伯美苗コーディネーターに民主党議員義援金一部を手渡す若林団長